

会議録（会議結果概要）

名 称	令和6年度第3回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会
開催日時	令和7年2月7日（金） 14:00～16:00
開催場所	各務原市役所 本庁舎 4階 4-1・4-2会議室
出席者	富樫幸一会長、阿部雄介様、各務英雄様、近藤亜矢子様、土田周策様、 鵜飼明男様、別宮理恵様、津崎陽菜様、松原正隆様、今道雄介副市長 ※欠席者：林ゆり様、古田宏司様、今尾真也様
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	次第 1 開会 2 議事 （1） 第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案）に関する意見交換 （2） 各務原市のまちづくりに関するグループでの意見交換 3 閉会
	1 開会 ≪事務局より説明≫ ・資料確認 ≪企画政策課長あいさつ≫ 2 議事 （1） 第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案）に関する意見交換 ≪事務局より説明≫ ・資料1：第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案） ・資料2：第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案）修正箇所一覧 ・資料3：令和6年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会意見対応表 ≪意見交換≫ 【出席者】 ・資料1の80ページの「安全・安心」に関して、自治会の防犯カメラ設置に対して援助があるのはよいが、年間の運用経費もかかるため、少ない自治会費で運営しているところには厳しい。 ・また、公共施設について、蘇原駅には広場が整備され、そこに多くの自転車が停められているが、自転車の盗難が多い。つい最近も、私がそこで管理業務を行っているときに盗まれてしまった方もいた。 ・各務原警察のレポートでは、犯罪の中で自転車盗難は多く、特に駐輪場で鍵をかけてないものに対してのことが多い。そのため、公共施設の駐輪場などに防犯カメラを設置してはどうか。 【事務局】 ・今すぐ設置するという返答はできないが、ご意見については担当課と共有し、考えていきたい。

	【出席者】 ・ 前回の懇話会で、暗くて困っているという意見を言った後に、まちづくり推進課の方から防犯灯の設置依頼の方法について連絡をもらい、実際に自治会に依頼した。まだ設置されていないため、自治会で不要と判断されたのかもしれないが、対応が早くてありがたいと感じた。 ・ 資料1の55ページ、「子育て」の、重点施策「保育サービス・幼児教育の充実」に、「大学等と連携した就職説明会の開催や実習の実施」と記載があるが、例えば、保育園の就職説明会だと、その園の良いところ等についてしか聞くことができず、なかなか内情がわからないため、積極的に就職しようという考えにはならない。保育だけではないと思うが、働いている方と話せる機会や、働いている方の実際の声を聞くことができる機会があるといいと思う。 【会長】 ・ 実習の時などに保育園で働く方と交流することもあると思うが、そういった機会ではどうか。 【出席者】 ・ 実習となると、自分の評価に関わることもあり、なかなか込み入った話ではない。また、現場の方は忙しそうにしており、話がしづらいというのが実情である。 【会長】 ・ P T Aや子育てに関わる立場からはどのように考えるか。 【出席者】 ・ キャリア教育はこれから大事にしていかなければいけないと思っている。優秀な人材が市外の大学などに進学してしまい、そのまま市外で就職するというケースが非常に多い。保育という分野だけではなく、様々な分野で、地元の企業や産業について、どのように伝えるかが重要である。そういった機会は、今も行政は提供してくれているが、さらに気軽にそういったものに参加できるようになるとよい。前向きな子は、常にアンテナを張って積極的に参加しているが、自ら手を挙げて参加しない保護者や子どもに、どのように様々な職業を伝えられるかを考えられるとよいと感じる。 ・ 市内の高校のP T A会長もやっているが、V Rテクノセンターから講師の方を授業に呼んで、高校1年生を対象に、市の産業や、テクノプラザに所在する企業の紹介をしていただいた。こうした機会をたくさん作っていくことにより、それで興味を持った人が、前向きになっていくかもしれない。こういった活動を、皆さんがそれぞれの立場、それぞれのコミュニティの中でできると良いと考えている。 【会長】 ・ 高校に行って、何か反響や感想はあったか。 【出席者】 ・ 学校の方から、「なぜこの会社を選んだのか」などの質問が事前にあったため、若手社員に参加してもらったが、若手社員が自分の言葉で語ったことや、世代が近いことから、より説得力があったと考えている。 ・ 別件だが、市内高校の2年生に対し、テクノプラザの企業見学を実施した。幹部社員が説明をする会社もあれば、若手社員が資料を作成し、説明や工場見学、ワークショップとして学生との意見交換までを実施している企業もあ
--	---

った。会社を説明するだけでなく、実際に若い人間が入ってみての感想や、面白いところ、やりがいなど、そういった生の声が聞ける場にすることが大事だと感じた。次回の開催予定もあるため、そのような仕組みを企業に考えていただくような取組をしていきたい。

【出席者】

今年度、商工会議所の青年部が市内の高校において、各企業で困っていることに対して高校生からアドバイスをもらい、その成果の発表を行い、優秀な企業には会頭から表彰するという取組を初めて実施した。

- ・大学に進学する人にも、やはり各務原市の企業のことを知ってほしいということがあるため、普通科高校にも拡大する予定である。また、市と連携し、市内企業と高校生とのワークショップも行った。それが就職に繋がるかどうかという追跡調査まではしていないが、参加者には喜んでいただけた。

【出席者】

- ・働くということや、働いたらどのような制度があるかというところが、まだ学生たちに伝わっていなかったところがあったため、令和7年度から、岐阜大学において、労働組合に入っている職種の方々が、就職や企業について学生さんたちに話す講座を持つことになった。こうした機会を増やすことにより、学生たちに伝えるということがやはり必要ではないかと思う。企業によっては2交代制、3交代制があるなど、会社に入ってからギャップを感じる人もいるため、そういうことも含めて伝えていけると良いと思っている。

【会長】

- ・大学の学生がインターンシップに行き、人事担当者の話を聞いてきたりしているが、あまり役に立っていないようである。岐阜大学では、東京海上日動、商工会議所、十六銀行などと一緒に、「岐阜県創生研鑽会」をやっている。企業の将来の幹部候補社員と学生が交流し、かなり本音のところを話せるようである。実際、参加企業に就職した学生もいるため、そういう機会も重要かもしれない。

【出席者】

- ・白川町は人口が減っているため、学生からの意見も取り入れながら、どのように町をPRしていこうかと本気で考えている。色々対応をしており、空き家はだいぶ減ってきている。そういった地域の施策を取り入れるのも良いのではないかな。

【出席者】

- ・資料1の55ページの「子育て」の「現状と課題」で、「子どもを社会の中心に据え、子どもの最善の利益を優先することなど、こども基本法の基本理念に基づき、子ども施策を推進することが求められている」と書いてあるが、子育て施策や子どもの現状を考えると、働く母親寄りになっている。例えば子どもを預けるにしても、子どもが本当はどうしたいかということではなく、親の事情に合わせているような形になっている。それが社会として良いのかということを特別議論されないまま、このまま進んでいくことには疑問がある。現状はこのような重点施策をやっていくしかないのかもしれないが、社会としてどのようなことが一番求められているのか、それに合わせてどのように対応したら良いのかについて考えて行けると良い。

(2) 各務原市のまちづくりに関するグループでの意見交換
《グループでの意見交換》

《発表》

*『ひと・まち』グループ（テーマ：子育て・教育、魅力向上）

【出席者】

- ・最近では女性の社会進出が進み、子育てについても、男性も一緒になって子育てをする時代となった。そういった中で、男性が子育てに参画しやすいような仕掛けをどのようにしていくか。男性は女性と比較して、新しく友達を作ったり、コミュニティを作ったり、自分の世界を広げるのが苦手だと感じている。そのため、どのように男性をそういうものに引っ張り出すかということを考えながら、イベントや行事などを仕掛けていく必要がある。

【出席者】

- ・若い立場からすると、結婚に対する価値観が昔と変わってきていて、働きたい女性が増えてきており、愛知県などに出ていってしまう。個人的には、各務原市は子育てしやすいまちだと思っているが、個人の価値観として、子どもがいらないとなれば、外に出ていってしまうこともある。また、各務原市は地元の人からすると、安心感であったり、人が優しくかったり、緑が綺麗であったりという良いところがあるため、そのような良いところをもっとアピールしていくのが良い。

*『しごと・にぎわい』グループ（テーマ：産業・雇用、発信・有極）

【出席者】

- ・市内の中小企業は、大企業の下請けも多いということもあり、なかなか企業のPRが上手くできていないと思う。そのため、どのような仕事をしているかということを「見える化」しなければいけないと感じる。例えば、ボルトを作っている場合、それが何に、どのように使われているかなどを、会社で働いている人自身が、いかに子どもなどに上手にPRを行い、企業の発信をできるかが重要である。
- ・若者は県外に出ていきがちだが、各務原市の企業が何を作っていて、自社の製品にどんなプライドを持ってやっているのかというところを発信するのは、やはり、それを作っている人、働いている人が上手にPRをしないといけない。PR不足というよりは、そのノウハウがわからないということもあると思うため、外の力を借りてPRするのも一つの手ではないか。
- ・市内には、アクアトトなど、いろいろなイベント施設がある。それらを広くPRすることも大事だと思うが、まずは、地元の人ガリピートして何回も行けるようなPRの仕方、イベントの打ち方を行うというのが重要ではないかと考える。また、アクアトトだけではなく、例えば、くすり博物館や防災センターなど、地元に住んでいても気づきにくい見所もあるため、周遊バスなどを使いながらPRしていくのはどうか。また、「体験型」も興味関心を引きやすいと考え、例えば、草餅屋で草餅作りが体験できたり、空き家にもものづくりの店舗などを誘致して、そこでものづくりを体験できたりするのも一つの手だと思う。とにかく、各務原市に少しでも留まってもらえるような、点ではなく面で捉えた取組ができないか。
- ・インバウンド向けとしても、そのような「体験」があれば各務原市に来てくれるのではないかと。ただ、各務原市には宿泊施設が乏しいため、各務原市だけではなく、犬山市や岐阜市なども含め、広域でPRするのも良いのではないかと。周辺を観光する中で、各務原市を訪れてもらえるような仕掛けができると良いと感じる。
- ・各務原市は、PRの仕方が上手ではないと感じるため、PRの得意な人を招

	いて、発信の仕方を教えていただくことや、市長自身にインフルエンサーになっていただくことが考えられる。また、企業で面白い製品を作っているところは、観光ルートの中に組み込まれることで、企業もPRでき、体験もでき、それにより各務原市は面白いところだとなればよい。歴史に関する観光は岐阜市や犬山市には勝てないため、各務原市は、何か新しいものの発信に特徴を見出し、そこをいかに伸ばせるかが大事だと感じる。 【会長】 ・各務原市は、環境に恵まれており、公園があり、暮らしやすいし、安心して暮らせる地域であるが、それがうまく伝わっていない。市内にはPRをとっても上手にしている会社もあるため、その辺りをもっと生かせればいいと思う。 ・学校と地域、学校と企業がだんだんつながってきている。総合戦略でもそれをうまく取り込んでいって、計画を作って終わりではないため、その次を少しずつステップアップする考えや取組を皆さんにも頑張っていたきたい。 3 その他 【事務局】 ・今年度の懇話会の開催は、本日で最後となる。 ・本懇話会においていただいたご意見は、人口減少対策、地方創生など、今後の本市のまちづくりの参考とさせていただきます。 ・これをもって、令和6年度第3回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会を閉会する。
資料	資料1 第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案） 資料2 第3期しあわせ実感かかみがはら人口ビジョン・総合戦略（素案） 修正箇所一覧 資料3 令和6年度第2回しあわせ実感かかみがはら地方創生懇話会意見対応表
備考	